

(様式2)

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570500544		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	柏崎グループホーム ふれあいの家		
所在地	柏崎市柳田町7-26		
自己評価作成日	平成22年12月9日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成23年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1・一人ひとりの希望やその時の気持ちに添えるよう対応している。(例 夜の入浴、晩酌、自宅に行くなど)
2・利用者やご家族の希望にも添えるように連絡相談しながら対応している。
(例 家族がGHに泊まる、家族との外出や旅行など)
3・看取りケアを取り入れている。(ご家族から看取りの希望がある時は丁寧に相談しながら出来る限り行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「柏崎グループホームふれあいの家」は、木造平屋造りの建物で、2ユニットからなるホームである。玄関はユニットごとに別になっており、中に入ると事務室を中央に両ユニットが繋がった構造となっている。そのため、ユニット間の交流や職員間の協力体制がしやすくなっている。リビングの窓越しからは、遠く山々が臨め、また、リビング内は日当たりがよく清潔感あふれる気持ちよい空間となっている。

近くにはショッピングセンターやホームセンターがあり気軽に買い物に出かける環境にも恵まれている。春には、ホームセンターで買った野菜の苗をホーム脇の畑で育て収穫を行ったり、花の苗を選んでホーム前の花壇で育てるなどして楽しんでいる。

「一日一笑」の目標を意識しながら職員は利用者に関わり、利用者の笑顔を引き出すよう取り組んでいる。職員は小さなことでも利用者主体に関わってもらえるよう働きかけを行い、利用者はそれぞれに役割を持ち、生き生きと笑顔で生活している様子が伺えた。また、利用者や家族との絆も大切にしており、家族へ密に連絡を行って情報を共有するとともに、本人や家族の思いを丁寧に聞き取りながら、安心して穏やかに生活できるよう支援している。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、「和を大切にする」。住み慣れた地域で、安心して暮らせるサービスに努めています。行事などでは地域との関係を大切にして、管理者と職員が理念を共有し実践に繋げています。	ミーティングや研修時には「和を大切にする」の理念に立ち返り、業務優先とならないようにケアを行うように意識している。また、理念を踏まえてユニット毎に月間目標を決めて、サービス提供に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りとして、年2回の神楽神輿の訪問があります。ホームで主催する納涼祭には、近所の方が参加されており、行事などの機会を活用しております。	民生委員や町内会長等と利用者・家族との会食の機会を設けたり、事業所の敬老会に運営推進会議のメンバーから参加してもらうなど、交流や理解を深めるための取り組みをしている。	今後さらに、地域住民との日常的な関わりや付き合いが出来るよう、機会づくりや工夫などを引き続き検討してほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を積極的に地域に向けて発信することがなく、地域に貢献する取り組みはまだできておりません。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動内容を公開する機会として、イベントに合わせての開催もしております。地域の実情なども知る機会となり、行政や地域の方との意見交換ができております。	運営推進会議には市町村担当者、地域包括支援センター、町内会長等の参加を得て、意見交換をしている。会議の折に、参加者にホームの日頃の様子を見てもらったり、利用者で交流する機会も設けている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	スプリンクラーの設置や更新申請などもあり、市町村担当者からは、事業所が適切な運営となるようにアドバイスを受けております。運営推進会議にも参加され、協力を得ております。	市町村担当者とはメールで情報交換を行う他、運営推進会議にも出席してもらっており、ホームの様子の報告や相談を行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止研修を行い、身体的、精神的な弊害をもたらすことを一人ひとりが意識しています。研修では職員同士で話し合うなど、身体拘束のないケアについて確認しております。	年間研修計画に沿って身体拘束排除のための研修会を実施している。また、日々のケアを振り返り職員間で話し合ったり、よりよいケアに向けて学習する機会を持っている。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修を行い、通報義務を学んでいます。虐待につながる前に、職員同士で話し合うなど虐待防止の徹底を確認しております。	月1回の研修会時や毎日のミーティングの際に、利用者に対する声かけ等を含め日々のケアが不適切なものでないか振り返る機会を設けている。年間計画に沿った研修も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加しています。また、地域福祉権利擁護サービスを利用していたケースもあり、活用できるように支援をしています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する内容では、分かりやすく理解してもらえる説明を心掛けています。文章の見直しや書類を付け加えるなどしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に担当職員などから、意見や要望を伺うように努めております。お客様満足度調査の要望も検討し、職員一人ひとりが意識しております。また、直接話しにくいケースは、本社お客様相談室の窓口も用意しております。	利用者個々に担当職員を決め、ホームでの様子等を積極的に家族に伝えることを通じ、意見や意向を確認するようにしている。また、平成22年度は「顧客満足度調査」を実施し、その結果をもとに改善が必要な部分について対応策を検討した。	「顧客満足度調査」を実施し質の改善に向けて前向きに取り組んでいる。利用者・家族に対し、調査結果と改善点等についての報告がなされると、反映状況がより明確に理解してもらえるのではないかと。意見や要望等のさらなる表出につながるよう、報告を行うことへの検討も期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや業務の合間に話し合う機会を設けて、意見を言いやすいようにしています。提案なども実行に移して、実際にやってみるなど反映させております。	毎月1回会議が実施されており、管理者は、職員のモチベーションを高め意見を言いやすいよう配慮して働きかけている。職員からの要望や提案は、ホームの運営やサービスに反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は事業所巡回を行い、現状の把握に努めております。職場環境の改善に努めております。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社社内研修担当の巡回研修や資格取得支援制度で、職員はスキルアップの機会があり、育成に取り組んでいます。新卒者本社研修や次期管理者候補本社研修などに参加しております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者の交流として、サービス毎に意見交換や研修の機会を設けています。グループホーム同士での交換研修などを実施し、介護職員のスキルアップに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接やホーム見学の受け入れを行い、環境の変化に少しでも不安が軽減できるように努めています。自宅での過ごし方に近づけるように支援しております。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望をしっかりと受け止めるように努めています。また、家族と相談しながら、必要なケアを行うようにしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が必要としている支援とグループホームの役割ができる限り近づくように調整し、また他のサービスや自宅復帰も視野に入れるように努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、言葉使いや対応に気をつけています。そして一方的に支援することなく、家事など共同作業を通して、生活の質の向上に努めています。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を手紙や新聞などで定期的にお知らせしています。情報を共有し家族と相談しながら、協力を求めて関係を築くように努めています。	本人にとって家族との関係は最も大切なものであると考え、家族との話し合いの上、受診への同行や、外出・外泊の機会づくりなどを働きかけている。訪問が少なめの家族にも電話をしたり、手紙やホームの広報紙を送付して本人の様子を伝え、本人の生活について家族と一緒に検討していくよう取り組んでいる。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の継続や行きつけの美容院に出かけています。今までの関係が途絶えないように配慮しております。	かかりつけ医、馴染みの美容室等今までの関係や繋がりを大切にしている。通院、外出時には可能な限り家族の同行をお願いし、家族との繋がりが途切れないように働きかけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事やお茶の時間を職員も同じように過ごして把握に努めています。利用者同士が自然な関わりを持つことを大切にしたいので、必要な場合のみ仲介となるように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム退所後も、情報提供を求められることがあり、家族や他施設職員と連絡しております。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関係を良好に保ち、思いや意向の把握に努めております。毎月のミーティングでは、職員の気づきや本人の意向を反映できるようにして、本人本位の視点で検討に努めています。	日頃の何気ない会話や表情から職員が本人の気持ちを汲み取るとともに、利用者と一対一で話をし、具体的に意向や要望を確認するようにしている。ミーティング時等には職員間で意見交換をして情報を共有し、介護計画に反映させている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしや思いをお聞きして、自宅の生活習慣を取り入れるなど、ホームの生活が自宅生活の延長に繋がるように支援しております。	入居前には自宅や利用中のサービス事業所等を訪問し、生活環境や暮らし方、日常の生活習慣などを本人・家族等から聞き取り、職員間で情報を共有している。また、入居後も、必要に応じてあらためて自宅での生活の様子等を確認している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、一人ひとりの生活のリズムを理解し、マイペースを尊重するとともに、できることへの働きかけを行うように努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを実施し、職員の気づきや意見を反映した介護計画を作成しています。現状の事例検討を行い、その方の必要な支援を考えるようにしております。	日々の本人の様子や職員の気づき、家族からの聞き取りにより本人・家族の意向把握に努め、それを反映させた介護計画を作成している。支援目標は把握しやすく評価しやすい具体的な内容としている。期間を決めて定期的に評価を行い、必要に応じて随時介護計画の見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきは個別記録や業務日誌に記載し、早急な対応などが必要な場合は、実践に反映するなど取り組んでいます。医療連携で看護師と相談を行い、実践しております。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば送迎なども柔軟に対応しております。また、利用者が重度化した場合に、往診のできる協力医に変更するなど対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の敬老会に毎年参加している方もおり、本人や家族が満足できるように努めています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にして、かかりつけ医を継続できるように支援をしています。また、皮膚科や整形外科などの専門医などにも、必要に応じて職員が付き添い、医療機関との関係を密に結んでいます。	本人・家族の希望を踏まえて主治医を決めている。今までのかかりつけ医を継続するケースがほとんどであり、ホームでの様子を伝えたり随時相談をしてそれぞれのかかりつけ医と連携している。ホームの協力医とも良好な関係が構築されており、状況に応じて主治医を変更する等必要な医療が受けられる体制がとられている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算を取得したことにより、看護師と相談する機会ができました。また、定期受診では、かかりつけ医の看護師と相談や連携が取れているところもあります。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はホーム職員も同行して、医療機関との情報交換に努めており、良好な関係を心掛けています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族と今後について話し合いをしています。特養等の申し込みを支援する場合がありますが、ホームでできることを説明した上で相談して決めています。2名の看取りを実践しましたが、職員も看取りに対して前向きに取り組む姿勢があります。	入居時に本人・家族と話し合うほか、家族の面会時や介護計画の更新時など折りに触れて意向を確認している。本人・家族の希望と、ホームでできること・できないことを踏まえて関係者と話し合い、支援方針を検討して対応している。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の介護職員としての対応方法や離脱時の初期対応などの研修を行い、備えています。	緊急時にも適切な対応ができるよう、マニュアルに沿った研修が行われている。日々のバイタル値の測定を行うほか、利用者の小さな変化等についても気づいたことを職員間で共有し、異常の早期発見・早期対応に努めている。	ホームで身近に起こりうる怪我や発作等への初期対応、応急処置等の訓練の機会を今後も定期的・継続的に設け、職員の実践力向上、不安軽減を図ることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を毎年2回実施しており、夜間を想定した訓練を実施しています。スプリンクラーや火災通報装置も設置済みとなりました。	実際の職員の勤務状況に合わせて、昼・夜を想定した避難訓練をそれぞれ行っている。避難訓練を運営推進会議と併せて行い、実際の状況に関係している。訓練後は、参加者の反省を踏まえて対応方法の再検討を行っている。	訓練の様子を見てもらう等の取り組みがなされており、今後は、次の段階として、地域者や地域の方々にも理解してもらえるよう工夫を行い、訓練後は、参加者の反省を踏まえて対応方法の再検討を行っている。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシーを大切にして、他の利用者の前では、申し送りをしないようにしています。先に食べ始める利用者がいても、注意することをやめて、マイペースを尊重するようにしております。	職員の考えや気持ちを押し付けない態度や声かけを心がけ、利用者が自己決定できるような関わり方をしている。また、利用者のプライバシーを尊重し利用者の記録は利用者の目に触れない場所で行い、保管も適切になされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけし、拒否がある時は無理強いないようにして、利用者の気持ちを優先するよう心掛けています。自宅希望などは、家族と協力して実践できる場合もあります。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者のペースに合わせているが、時には職員の都合が優先してしまい、申し訳なく思う。一人ひとりの希望があると思うが、十分にはできていないと思う。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時には、鏡に映して服が似合っていることを褒めたりしている。美容院に本人が行きたいと申し出があっても、すぐに行けないときがある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や調理を一緒に行っています。トコしらえや盛り付けなど実践しています。できることが増えるように、包丁を使わずに皆で干切ったりなど手作業を取り入れています。畑で収穫した野菜も、食材として取り入れています。	職員は、小さなことでも利用者と一緒に行動するように働きかけ、調理や盛り付け、配膳・下膳など、利用者それぞれができること・やりたいことを行っている。職員は自然に寄り添いながら側面的な支援をし、利用者とともに食事を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶などを好まない方には味の違うものや目先を変えてゼリー等を勧めて摂取を心掛けている。水分確保など必要な場合はチェック表を用いる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをして頂き、上手に出来ない方は声かけや支援をしている。歯ブラシ、コップの管理も毎日消毒している。歯科検診を毎年行い、治療が必要な方には受診しております。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗の経験をできるだけされないように、さりげない声かけや洗濯物を出しやすいようにしています。トイレでの排泄を基本として、日中はトイレ誘導、夜間はオムツ対応やPトイレなど個々に合わせている。	排泄記録を活用して、利用者一人ひとりの状況に応じた声かけや誘導、介助等を行い、排泄の自立を目指した支援をしている。万が一失敗が見られた際は、本人のプライドを傷つけないよう配慮してさりげなく対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤服用している方は、下痢症状が続いていないか観察して、下剤の種類の変更をするなどを調整しております。その人に合わせた水分補給を心掛けたり、テレビ体操や腹部マッサージ、トイレにゆっくり腰掛ける時間をつくるよう心掛けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人の身体状況やできる能力に合わせて、必要な入浴介助をしている。入浴を拒否する方は、家族の方から声をかけていただき、協力を得ております。	入居前の生活や本人の希望を確認しながら回数・時間を検討して入浴を支援している。午前、午後、夕食後と本人の希望する時間に入浴できる体制を整えている。入浴を嫌がる方へは、声をかけるタイミング等に配慮し、気持ちよく入浴につなげられるよう努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	窓際に椅子を用意したり、各自の好みの場所で自由に過ごせるように配慮している。夜間は、室温、寝具、着衣、照明に注意を払うようにしている。入床前の時間を穏やかに過ごせるように、お茶を飲んだり、テレビを楽しむ時間を作っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや飲み込むところまで確認をするようにしている。処方薬が変更になった場合は、説明書で内容を確認し、しばらく様子観察など注意を払う。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割の場をさりげなく提供したり、作業を分担したりする。時には集団で楽しめるゲートボールなどで気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーなどに出かける機会があります。誕生日の希望で外食がある場合は、一緒に出かけるようにしております。	読書が好きな方には図書館へ付き添ったり、近くのスーパーやホームセンターへ買い物に行く等、本人の希望に沿って外出を支援している。自宅へ戻りたいという希望が強い方に対しては、家族の協力を得て、職員が同行して自宅で過ごす時間を設けるなどしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持参している方は、希望時に買い物に出掛けています。基本的には立替金で支払いをしております。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いた時は、電話で話をされたり、手紙でお礼を伝える機会を支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	迷う方には、自室やトイレの場所が分かりやすいように張り紙をしています。小上がりやソファなどのスペースでそれぞれが過ごせるようにしています。季節ごとに塗り絵や折り紙で壁面など飾り付けをしています。	共有空間は採光がよく明るい雰囲気である。フロア内には、ソファコーナーや、コタツを立てた畳スペース等があり、利用者はそれぞれ思い思いの場所でくつろいでいる。ピアノを弾く方のためにキーボードも用意し、時々演奏を楽しんでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースにソファや畳があり、また日当たりのよいスペースに椅子を置くなど、くつろげるようにしている。普段の自席も仲のよい者同士が隣になるように配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家に置いてある使い慣れた物を持ち込んで頂いています。壁には、趣味や好きなものの写真や絵で飾り付けをして楽しめるように配慮しています。	入居前には自宅等を訪問して家具等の配置を確認し、自宅に近い居室環境となるようにしている。布団や家具は今まで使っていた物を持参してもらい、本人が落ち着いて過ごせる空間づくりに努めている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	配膳の準備がしやすいように工夫しております。転倒などがあれば、できることを生かして、環境の見直しに取り組んでいます。		